令和元年度の新入職員に、就職活動の頃の話や総務省で1年を過ごした感想をお聞きしました。

Q1 総務省の魅力は何ですか？

A・管轄範囲が広く、あらゆる業務に携われるところ。また、先輩や上司の皆さんが明るく優しい方でなんでも相談しやすいところ。

・地域のために働くことができることです。地方勤務の機会もあり、地域に熱い思いを持っている職員の方々が多くいます。都道府県や市町村から出向されている方々と共に仕事ができることも魅力です。

・幅広い所掌だと思います。同じ課題に対しても、異なるツールを使い、多面的にアプローチしていくことで解決策を見出していけると考えます。

Q2 就職先を選ぶ際に重視したことは何ですか？

A・「自分自身が楽しいと思って働けるか」「やりがいを感じながら働けるか」を常に意識していました。これらが満たされていれば、どんなにハードな仕事であっても乗り越えられると思っていたからです。

・業務内容に働きがいを感じられるか、その上で仕事一辺倒にならずにプライベートの時間も確保できるか。

・職員の方々が明るく楽しそうに職場の話をしてくださること。また、地域のために働きたいと思っており、自分の地元はもちろん全国各地に関わりたいと思ったため総務省を選びました。

Q3 就職先を選ぶ際、総務省以外は検討しましたか？

A・民間企業でも就職活動をしており、公務員と民間企業のどちらに進むか悩みました。その際、今後働く上で今の自分が大事にしたいことはなにか、どちらに進んだ方がそれが叶うか、ということを突き詰めて考えました。

・総務省以外にも他省庁の説明会に参加したり、民間企業の就職活動も並行して進めたりしていました。

・元々は、子どもの頃から住んでいる地元で働き貢献したいと思い、地方公務員を目指していました。国家公務員に絞った後も、各省庁ごとに異なる業務内容に興味を持ち、最終的に総務省、人事院、内閣府を検討しました。

Q4 総務省を選んだ決め手は何でしたか？

A・自分がこれまでに培ってきた能力や経験を十分に活かしながら働けると確信しました。また、説明会や官庁訪問を通じて、「この場所で働きたい」「この人と働きたい」と感じる出会いが数多くあったことも大きいです。

・全国規模の仕事だけでなく、地方への赴任も経験できることは総務省ならではの特徴です。地方で働いて実情を知るとともに、国の目線で自治体の運営を支援できるのは、地方を志望していた私にとって魅力的でした。

・変化の大きい時代の中で、「情報通信」というツールを駆使してさまざまな諸課題に対応し、また思い描く未来の実現に近い仕事ができると考えました。

Q5 公務員試験の準備で苦労したことはありますか？（また、その対策は？）

A・自分は予備校等にも通っていなかったので官庁訪問に関する情報収集に関しては苦労しました。ネットで調べただけでは詳しい情報が出てこなかったりするので、事前の説明会等で直接情報収集するようにしました。

・就職活動は公務員試験専願だったので、本番の面接を受ける機会が少ないことが不安でした。面接に慣れるため、大学のキャリアセンターで模擬面接を受けたり、友人同士で練習を重ねたことが非常に役立ちました。

・試験勉強に取りかかるのが遅く、内容を理解するまでに時間を要してしまいました。早い段階から計画的に勉強をしておけば良かったと思います。時間が限られていたため、基礎を固め、基本的な問題を落とさないことに重点を置いていました。

Q6 受験を通じてやって良かったと感じたことや、反省点などはありますか？

A・合同、個別も含め説明会に参加をしておいてよかったです。自分がどんな仕事をしていきたいかを決めるためにとても役立ちました。

・やって良かったことは、総務省をはじめ、様々な省庁や自治体の業務説明会に参加したことです。数多くの職員の方から話を伺い、業務内容や職場の雰囲気を比較しながら、総務省の志望動機を固めることが出来ました。

・心配な時こそ、自分ができる精一杯の準備をしようと心がけたことは良かったと思います。不安だと嘆いても何も変わらないので、試験の準備をして「まさに今成長しているから大丈夫だ」と落ち着くようにしました。

Q7 官庁訪問のアドバイスはありますか？

A ・受け答えを一言一句暗記しようとするのではなく、その場の自分の言葉で説明できるように実際に口に出して整理し、説明する練習をするといいと思います。とにかく自信を持って頑張ってください！

・官庁訪問は非常に緊張するので、気温の変化や、少しの睡眠不足で、ガクッとパフォーマンスが落ちてしまうように感じました。体温調整のできる膝掛けを用意し 、栄養のある食事を摂り、早寝を心がけると良いと思います。

・官庁訪問では、執務室に足を運び面接を受ける機会がありますが、その場でぜひ積極的に質問をして下さい。仕事からプライベートの話まで幅広く聞くことで、疑問や不安を解消することが出来ると思います。

Q8 学生時代にやっておいてよかったことは？

A ・サークル活動、ゼミの活動と、勉強以外のことを気の向くままなるべく多く経験しておいてよかったと思いました。

・平日に時間があるうちに、友人と心置きなく遊び、博物館や美術館、映画、演奏会へたくさん行ったことです。（学生料金は偉大です！）

・旅行等で様々な地域に行ったことです。総務省では地方に詳しく色んな県を訪れた方が多いので、お話がより楽しく聞けます。旅行や郷土料理のお店に行く際は、おすすめの観光地や食べ物を教えてもらっています。

Q9 入省後1年間勤務をしてみて、入省前とギャップはありましたか？

A ・思った以上に、風通しが良いことです。試験勉強での内容では、稟議など必ずしなければならないと習ってきており、説明会で風通しが良いと言われても意見は通りにくいと思っていましたが、想像以上に意見が言いやすく、働きやすい環境です。

・実際に勤務してみると、想像以上にひとつの業務や政策に対して、様々な部署や立場の人が関わりながら仕事が進められていることを実感しました。

・テレワーク等が多く活用されていて、働きやすい環境が整っていたことです。テレワーク等が用意されているだけではなく実際に多くの方が利用され、効率的な業務を行っていました。

Q10 1年間の業務を通じて印象深かったことは？

A ・若手も積極的に出張で全国に行き、ヒアリングも率先してできることです。分からないことや疑問に思ったことを事前に把握し、直接お話ししたり疑問を投げかけたりすることができるのは、とても印象的でした。

・学生の頃、教科書等で日本の人口を漠然と知る機会がありましたが、この人口をどのように調べているのかを内部の人間として詳細に知ることができたことが印象深かったです。

・政治資金適正会委員会が毎年全国各地で開催している研修会で講師を務めたことです。大勢の方の前で講義をさせていただくという経験は緊張しましたが、やりがいがあり、大変貴重な経験となりました。

Q11 将来どのような仕事に携わってみたいですか？

A ・現在、調査の公表準備をしており、実際に一般の方々に公表する業務を経験したいと考えてます。公表した値がどのように用いられていくのか非常に興味があるからです。

・地方創生に興味があるので総務省が行っている地域おこし協力隊などの施策に関わる仕事をしてみたいです。入省後に改めて総務省が地方創生への様々な施策をしていることを知り、より強く自分も関りたいと思いました。

・サイバーセキュリティ、安全保障関係。現在の課では、諸外国からの来訪対応を担当することも多いが、先方は上記分野に関心を抱いていることが多く、総務省としてこうした分野により注力すべきと考えているから。

Q12 総務省を目指す方へのアドバイスをお願いします。

A ・総務省はとても働きやすく、またメガ省庁で交流も盛んです。私はもともと自治体などにも興味があり、まさに今、自治体目線での国ができることに取り組んでいたりと、所属にかかわらず、様々な業務に携わることができます。是非総務省に入り、一緒に仕事をしましょう！

・不安になることも多いと思いますが、総務省を志望する動機をしっかり自分の言葉で伝えられれば大丈夫だと思います！あとは、今のうちに自分なりのオンオフの切り替え方を見つけておきましょう。

・理念を持つこと。〇〇の政策に興味があるだけでなく、その政策を実現する先にどのような日本を創造したいのか。そうした理念や思想は、省庁ごとに普遍的に存在し、そう変わることは無いと感じている。

Q13 現在の職場の雰囲気は？

A ・私が配属された課は女性の方が多く、業務の話ばかりではなく、アットホームな雰囲気で業務が行えています。分からないことがあればすぐに上司に教えてもらえるので、日々成長していることを肌で感じられる職場です。

・先輩後輩の垣根なく常時議論が行われており、頻繁にコミュニケーションが図られている。また、若手の意見を求められることが多く、主張した意見が的を射ていたら反映されやすい職場だと感じる。

・室員皆で同じ仕事にあたっているので、チームワークで仕事が成り立っています。上司や先輩から学ぶことが多く、分からないことがあっても相談しやすい環境だと思います。

Q14 直属の上司はどのような方ですか？

A ・私の上司は女性の方ですが、バリバリ仕事をこなしており、初めは私もこの人みたいに業務できるか不安でした。ですが、その上司が優しく仕事を教えてくれ、今では迷うことなく業務を行えています。

・分からないことがあっても相談しやすい温厚な上司です。仕事に対しては厳しいですが、仕事以外の昔話などもよくしてくださるので親しみやすいです。飲み会にもよく誘ってくださいます。

・面倒見が良い方です。業務について質問すると必ず丁寧に教えてくれますし、常にその答えになる考え方を共有してくれるので勉強になります。そうした中で一つずつできることも増え、達成感を感じることができます。

Q15 残業はどの程度ありますか？

A ・時期によってばらつきがありますが、私の課は多いときだと月40時間、少ないときだと月10時間ぐらいです。定時退庁をイメージされる方が多いと思いますが、民間企業と同様で繁忙期には残業があります。

・繁忙期は遅くまで残業をすることがあるが、波があり、入省前のイメージより残業は少ないと感じる。また、上司から定時で帰るよう声をかけていただく環境下にあり、早い時間に退庁しやすいと感じる。

・多少忙しい時期はありますが、基本的に定時に仕事を終えています。余裕があるときに、できる仕事をなるべく終わらせておいて、一時期に仕事の負担が集中しないようにしています。

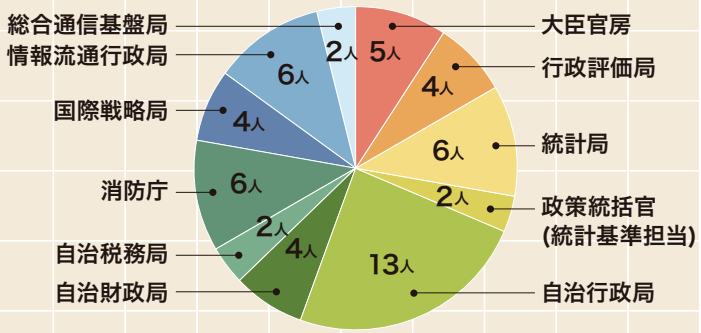
Q16 余暇の過ごし方は？

A ・休日は平日に録画しておいたテレビ番組をみたり、学生時代の友達と飲みに行ったり、同期と遊んだりしています。私はあまり旅行に行きませんが、有給もとりやすいため連休をつくって旅行に行くこともできます。

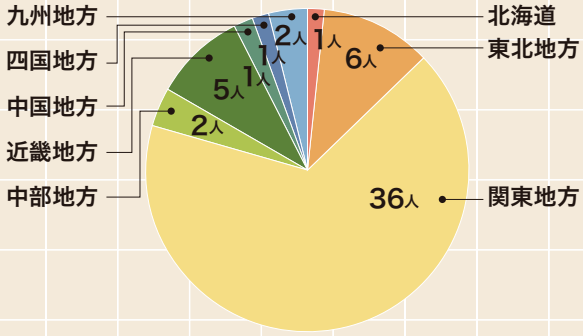
・高校や大学の友人と出かけたり皇居ランをしたりと、身体を動かして過ごすことが多いです。仕事の英気を養うためにも休日にオンオフの切り替えをしっかりするようにしています

・秘書課主催の英語講習に参加しています。今後業務で必要になる英語の習得とともに、他部局の友達ができ一石二鳥です。総務省は所管範囲が広く、部局の分だけ多様な仕事があるため、話を聞くととても刺激を受けます。

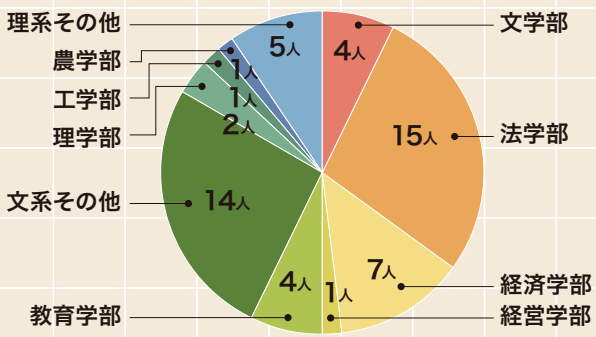
Q17 現在の所属部局は？



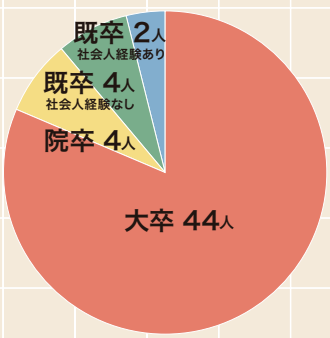
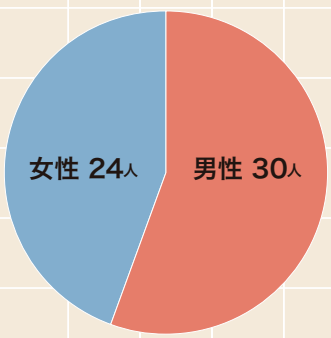
Q18 出身地はどこですか？



Q19 大学の出身学部は？



Q20 入省時の経歴は？



Q21 性別は？